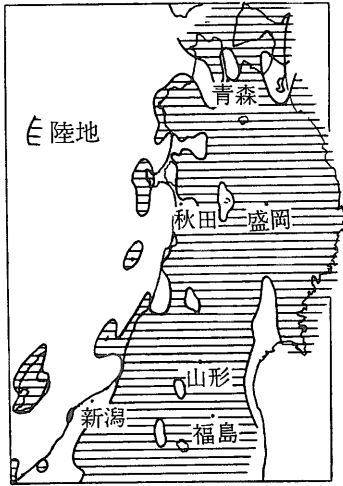


脊骨がはっきりしてきた。 笹岡階（Ⅶ階）ではこれがさらに進み第20図のような堆積区となり 鮎川階（Ⅷ階）では第21図のように ところどころに湾入を残すのみで現在の日本海の海岸線に近似した線まで海が後退した。 第4表は構造発達と堆積区の変遷を総合して東北地方の油田地域の地殻変動を一覧表にあらわしたものである。 門前階 台島階および西黒沢階の造構造運動は地向斜的堆積盆地を形成するまでの はげしい火成活動を伴う地向斜生成期の運動であり この時期の火山碎屑岩類が いわゆる“グリーン・タフ”と呼ばれているものの主体をなしている。 船川階後期（Ⅴ_下階）から後の断続的な造構造運動は 堆積盆地を縮小する基盤上昇運動で 褶曲構造の形成をもたらしたものである。 背斜褶曲は船川階後期からはじまり つぎつぎに背斜が生まれ 断続的な運動により成長して鮎川階末に完成した。 積成盆の沈降量は女川階～船川階に最大を示し 船川階後期から急激に減少した。 堆積区は西黒沢階末期に最も広がり 船川階以後次第にせばめられ 鮎川階末にほとんど陸化した。 以上要するに 東北地方の含油第三系の堆積盆地は次の3つの段階に大きく分けられる。 すなわち 門前階～西黒沢階前期を地向斜生成期 西黒沢階後期～船川階中期を地向斜的積成期 船川階後期～



第21図
Ⅶ階の堆積区
(池辺 1962)

鮎川階を地向斜解体期とみることができる。 以上池辺 獲博士の学説を紹介した。

岩佐三郎博士(1962)によって青森県津軽地方を総括されたが 紙面の都合上割愛したので 石油技術協会誌 第27巻第6号を参照されたい。 (筆者は地質部)

地学と切手



磐梯朝日
国立公園

堀内 恵彦

山形・福島・新潟の三県下にわたり総面積 1896.61km²の雄大な山岳公園で 出羽三山から朝日岳に至る地区 飯豊山塊地区 吾妻火山群と猪苗代地区の3地区に分かれ この地域内の山岳は いずれもが東北地方の名山です。

出羽三山 といわれるのは 標高1,970mのアスピーテ式火山の月山を中心として湯殿山 羽黒山を合わせたの呼称で 昔から加賀の白山 吉野の大峯山とともに信仰の霊場として有名です。

朝日連峯 は東北アルプスとも呼ばれ 原始的な高山性山岳地で 大朝日岳(海拔1,870.3m)を主峰に北に続く高山の集団で 日本海からの季節風の影響で 高山植物も多く見られます。 西南部の三面川上流は 三面郷と呼ばれ 平家の落人といわれる人々の生活する秘境で 原生林地域にカモシカ 熊 テン ムササビ等が生息し 自然動物園の観があります。 また未開発の地下資源も多くあるといわれています。

飯豊山塊 は飯豊山(海拔2,105m)を中心とした深山を思わせる山岳で 飯豊山頂には飯豊神社の奥宮があり 信仰の山としてにぎわいます。 またこの雪渓と高山植物も有名です。 北端部の国鉄米坂線沿線には関郷三泉といわれる温泉地帯があります。

磐梯・吾妻・安達太良 の三山を中心とした地帯は 日本有数の火山群地帯で 風光明媚の地として 付近に散在する温泉群とともに行楽に好適の地です。 吾妻山は東中西の3地区に大別され 山と温泉に加えてスキーの適地でもあり 夏冬を通して利用されます。 安達太良山は東麓に岳西麓には沼尻の温泉をかかえ 山頂からの景色は雄大です。 磐梯山は会津富士とも呼ばれ 明治21年の爆発で山体の大部分が飛散しこれらの岩屑が付近の河川をせき止め 檜原三湖をはじめ多くの湖沼ができ 裏磐梯と呼ばれる景勝地が作られました。

猪苗代湖 は磐梯の南にある陥没湖で 魚類は水質の関係でほとんど生息しませんが その風景は定評があります。 豊富な水量は発電・かんがいに使われています。

この公園は各所に温泉が豊富ですから一年を通じて行楽・探勝に利用することができます。 切手は昭和27年10月18日に 5円(吾妻小富士) 10円(大朝日岳) 14円(磐梯山) 24円(月山)の4種類。 昭和38年5月25日に 5円(朝日連峯「以東岳」) 10円(檜原湖からの磐梯山)の2種が発行され 公園指定は昭和25年9月5日です。

(筆者は元所員現科学技術情報センター)